

審査委員長講評

自己表現の重要性について

拓殖大学 顧問 渡辺 利夫



作文部門で大賞を取られたのは黒木大誠君です。タイトルは「台湾から考える私達の未来」というものでした。1999年9月21日に台湾で大きな地震が起きました。その時、黒木君の一人の伯母様は台中日本小学校の教員でしたが、台湾の人々に大いに助けられました。また黒木君にはもう一人の伯母様がいて、この方は2011年3月11日に東日本大震災が起こった時には岩手の小学校の教員をしていました。台湾から遠いこの岩手の地に台湾の人々は大変熱い支援を送って下さったそうです。

作文部門で大賞を取られたのは黒木大誠君です。タイトルは「台湾から考える私達の未来」というものでした。1999年9月21日に台湾で大きな地震が起きました。その時、黒木君の一人の伯母様は台中日本小学校の教員でしたが、台湾の人々に大いに助けられました。また黒木君にはもう一人の伯母様がいて、この方は2011年3月11日に東日本大震災が起こった時には岩手の小学校の教員をしていました。台湾から遠いこの岩手の地に台湾の人々は大変熱い支援を送って下さったそうです。

スピーチ部門で大賞を受賞されたのは、溝口璃温君の「客家と私」です。家族の歴史から自分のルーツを知り、それを受け止め、さらにその背後にある民族や文化への関心を深めていく姿勢が実によく描かれております。

乱を逃れて家族はまずシンガポールに渡ったのですが、しかしそこも安住の地ではなく、家族の一部は日本にやってきました。その一人が溝口君の曾祖母だそうです。運命的ですね。

乱を逃れて家族はまずシンガポールに渡ったのですが、しかしそこも安住の地ではなく、家族の一部は日本にやってきました。その一人が溝口君の曾祖母だそうです。運命的ですね。

その岩手にある保育園も、台湾の人々の支援を受

けその後も順調に運営を継続しており、名前も「日台きずな保育園」となって現在にいたっているそうです。自分も何かの恩返しを台湾にしたい、しかしそのためにはまず台湾のことをよく知ってからでなければなりません。目下、黒木君はいろんなルートを使って台湾のことを一生懸命に勉強しています。「他者を理解すること、そして認め合うこと」これが最も大事だ

ある時、シンガポールに住んでいる溝口君の叔父様が日本にやってきました。その時、溝口君は初めて英語でもなく中国語でもない第三の言葉を耳にしたそうです。「何語ですか」と聞いたところ客家語だといわれ、溝口君は自分の家族が客家のルーツをもっていることを知らされたのです。中国の混

乱を逃れて家族はまずシンガポールに渡ったのですが、しかしそこも安住の地ではなく、家族の一部は日本にやってきました。その一人が溝口君の曾祖母だそうです。運命的ですね。

乱を逃れて家族はまずシンガポールに渡ったのですが、しかしそこも安住の地ではなく、家族の一部は日本にやってきました。その一人が溝口君の曾祖母だそうです。運命的ですね。

